

六稜会報

NO. 21

1988・10・1

昭和63年10月1日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06 (303) 5661 代表
振替 大阪9-068025
六稜同窓会名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・満島正巳・阪田善信
印刷 フジエフォート印刷
電話 0729 (87) 8254



吾が精鋭のいくところ
六稜の大旗ひらめきて

大阪予選 対牧野決勝戦

トライする 吉田(剛)主将、(左から)
フォローする 木下、竹本、田畑、
弓場、斉藤、西岡 (毎日新聞社提供)

115周年総会

母校で

会場 北野高等学校 電話 06 (303) 5 6 6 1 代表

日時 11月6日(日)

0:30 PM	受付
1:00 PM	総会(講堂)
2:00 PM	パーティー開宴 (食堂・食堂前テント)

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 3,000円 (但し、S59卒以降一卒業5年以内と) ※乞う
(S6卒以前一75歳以上の方 — 無料) 出席通知

卓話



「外交あれこれ」

前駐英大使 山崎敏夫氏(53期)

(経歴) 大正11年、大阪府生まれ。

昭和19年、東大法学部卒業後、外務省に入省。在米大使館公使、アメリカ局長、大臣官房長、駐エジプト大使、駐インドネシア大使を経て、同59年、駐英国大使。同63年、帰国、退官。現在、三菱商事(株)顧問。

卓話者紹介

われわれ53期には、大使が三人もいた。山崎敏夫英国大使、中江要介中国大使、山口孝一郎フィンランド大使。おかげで、いろいろな国のさまざまな話を聞くことができた。

山崎君は、中学のとき真面目な勉強家で、成績は極めて優秀、いつも一番で級長をされていた。外交官になられて多忙であったが、たまには大阪に来られて、ためになる話を聞かせて貰った。今回はどんな話か、楽しみである。

中野 弘 (53期)

「英経済評価の演説 マスコミがとびつく」(S63・2・25 朝日新聞朝刊から)

英国駐在の山崎敏夫大使(65)＝写真＝が23日、ロンドンで開かれた経営者協会の総会で三千人のビジネス幹部を前に演説、サッチャー政権の下で「英国病」を克服して目覚ましい回復をみせた同国経済を高く評価した。

来月の退任を控えての演説で「当地に私がいた三年間は英国の奇蹟の年でした」と指摘、さらに、現在開催中の冬季オリンピックにひっかけて、「もしビジネス・オリンピックがあれば、英国はかなり多くの金メダルが取れるでしょう」と称賛した。

これには英国のマスコミが異常なほどの関心を示し、英放送協会(BBC)が昼、夜のニュースでトップの一つとして報じた。夕刊紙イブニング・スタンダードが一面トップ、ファイナンシャル・タイムズ紙など高級紙の多くも写真つきで報道。感情的な反日記事をしばしば掲載する保守系大衆紙「サン」も手放しで「英国は再び偉大な国になった、と日本人語る」の大見出しだった。(ロンドン＝荒田特派員)

ご挨拶

名誉会長就任にあたって

名誉会長・校長 藤 枝 榮



3年間に亘り本校教育の発展充実に貢献され、今春、ご勇退されました松下邦夫先生の後任として着任いたしました。創立115周年を迎える輝かしい歴史と伝統をもつ本校に就任いたしまして、誠に光栄に存じますとともに、責任の重大さを感じ、

身の引き締まる思いでございます。北野百年史をじっくりと読ませていただき、改めて歴史の重さと、本校の果すべき責務の重大さを痛感させられました。

ご存知の如く、現在学校教育に押し寄せています改革の波は高く、高校教育も大きな転換期を迎えております。高校への進学率も90%をこえて定着してまいり、生徒の多様化に対応すべき高校教育の在り方は一段と難かしさを増してきております。そうした中で、来るべき21世紀に向けて国際人として堂々と生き抜くことのできる人材の育成が強く望まれるところであります。この時代の要請に応えることが本校に課せられた大きな使命と申すべきであります。本校の教職員や同窓の方々が永年に亘って抱き続けてきた極めて高い誇りを真の意味での誇りとして維持していくこと、また、維持し得る学校として存続させることこそが、われわれ現場を預る者の責務であると覚悟いたしているところであります。

時代は急速に変化していきます。教育そのものも時代とともにその様相を変えてきてはありますが、かつて松尾芭蕉が俳諧の世界で極めた「不易流行」の理念こそ、今本校にとって最も重要であろうと考えます。良き伝統、

校風を根底にふまえ、揺ぎない基盤の上に「高き誇り」をしっかりと身につけ、更に時代に即応できる人物を育成することが、偉大な先輩諸氏のご期待にお応えするところであろうと存じます。

本年度の大学進学状況も、幸い府立高校においては抜群の成績を残してくれました。また一方ラグビー部も全国大会に出場し、そのさわやかな熱気あふれるプレーは世間の注目を集め、改めて勉学にスポーツにと幅広い北野の教育を世に問うことができました。とはいえ、時代の波は種々の形で本校にも打ち寄せてまいります。生徒急増期の最後の時期を迎え、本年に続き来年度も2学級増となり、全校42学級というマンモス校となります。これは北野の教育をより充実させる上からは決して好ましいことではありませんが、これも府民の子弟の教育上止むを得ない処置と考えます。北野高校の果すべき役割をより一段と高く、広い視点におき、堂々と対処していかなばならないと存じます。

次に、校舎改築につきましても軽々しくことを運ぶわけにはまいりません。今後じっくりと検討を進め、できる限り多くの方々に納得していただけるものにしたいと存じております。

今後とも何かと同窓会の皆様方のお力添えをお願いすることが多いと存じます。ご支援ご助力をお願いいたしますとともに、六稜同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

〈ご略歴〉昭和5年岡山市でご出生。岡山県立岡山第1中学校から広島高等師範学校を卒業。昭和27年より50年3月まで国語科教諭として豊中高校に奉職。

柴島高校教諭、同校教頭、府教委指導第一課指導主事、科学教育センター研修第2部長、寝屋川高校校長を経て、昭和63年4月1日、本校校長としてご着任。

年会費は 2,000円です !!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

年会費は 2,000円です。旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げます。
納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の *印 は昭和62年度年会費納入済の印です。

昨 年 の 総 会 か ら

卓 話

「漢方薬と

肩こり・腰痛について」

近畿大学医学部附属 清原 祥恵 (69期)
東洋医学研究所員

時間の都合上、簡単なお話してお許しいただきたい。私は、二千年前に、解剖学のなかった時代から残っている漢方薬が、現代の医療に本当に利くものか、適合するものかどうかを研究している。結論から申し上げれば、皆様が一番関心の深い肩こり・腰痛については「利く」とお答えできる。ではどの様に、何故きくのか。

肩こり・腰痛の原因は多々あるが、原因によらず、そこに生じている結果をみれば、血液の流れの状態が悪くなっているのであって、そのために、細胞・筋肉等の結合組織が栄養失調の状態になり、新しい酸素がもらえず老廃物が捨てられなくなり、筋肉が萎縮するというのが、現象として、肩や腰に生ずる。

例えば、肩こりに利くものの代表に葛根があるが、筋肉を和らげ血流を改善する薬理作用を持つダイゼインが成分として、含まれているからである。これは漢方薬が利くことが証明された一例であるが、化学構造式のきっちり決ったものでないと医療に使ってはならないと私達は考えている。

今漢方薬が血流を良くし、また免疫を活性化させることで世界的に脚光を浴びている。薬用植物の甘草に含まれる成分がエイズに利くと学会で発表されたが、薬用植物は産地によって成分が異なり、良質の中国産のものの国際相場が上昇し研究者を困らせている。これもエイズ禍の一例か。

女性の冷え性等に利く「当帰」(漢方薬名は当帰芍薬散)についても、また男性の若返り薬?「八味地黄丸」についても、いろいろと解っており、生薬については話題がつかない。

動物性生薬には牛黄があり、古くから薬師寺のお札の墨汁の中に用いられていて、例えば子供の解熱時に水にとかして用いられていた様であるが、この良質のものはオーストラリア産の七千頭の牛に一頭の割で自然に発生する牛の胆石である。これが日本脳炎のウイルスに利くことが発見され更に研究が進められている事をご報告して、終らせていただきたい。(要旨)

東京六稜会第31回総会報告

東京六稜会第31回総会は恒例のごとく日本工業倶楽部において6月2日(木)午後6時より開催されました。

あいにくの雨の中、それでも250名を越す来席を得、まず常任幹事代表の岩木俊氏(63回)の司会で総会が始まりました。昨年、玉置前会長より引継いだ河崎晃夫会長のご挨拶、藤枝校長よりの母校近況報告、檜川常任幹事の会計報告などにつづき、今回の記念講演は、東京大学医学部整形外科教授 黒川高秀氏(69回)によって行なわれました。

広い年代層に渉る六稜会にふさわしいテーマを、ということで、「腰痛の見分け方」と題したこの講演、人間だけでなく、牛や馬など動物にもあるという腰痛の種類や原因、症状への対応など、スライド映写という視覚的なわかりやすさと、そのユーモラスな語り口が、聴講された方々にも大変好評とお見受けしました。

懇親パーティーは東京六稜会としては始めてという、女性司会者、石垣(柴田)具子さん(69回)の進行で行なわれました。というのは、総会の企画等を年度別の当番制で行なうことになり、69回生としては、トップバッターの印象度をより強めるための企画の一環であったわけです。そしてもうひとつ、昨年度の全国大会への出場を果たした母校ラグビー部の活躍ぶりを東京にも伝えようと、会場壁面に、「北野花園出場!」と一面に報じたスポーツ紙をパネルして飾り、コーナーにはTVモニターを設置し、ラグビー部の奮闘を伝えたVTRを放映するなど懇親パーティーを盛り上げるための様々な催しが入れられていました。そして圧巻は、所用のため御来席いただけなかったラグビー部自見監督(70回)にかわり上京された同期で元応援団長の大谷健二氏の熱気あふれる観戦報告でした。

北野、いや大阪あげての数々のフィーバーぶりを聞くたびに会場は爆笑と拍手、拍手。

川島武宣氏(39回)の乾杯の音頭で会は賑やかに進行、宿里明弘君による新会員の紹介、隈目大一君の挨拶なども例年の通りなごやかな雰囲気の中で行われ、最後に校歌の大合唱と来年の世話役にあたられる70回の諸氏の紹介と御挨拶で第31回の総会の幕となりました。

(69回) 辻 正剛 (記)

東京六稜会事務局

〒160 東京都新宿区左門町14

TH左門町ビル101号室

社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟本部

事務局長 檜川 哲次

電話 03-357-3741

会 務

緊急常任理事会(昭和62年12月18日) 於 清交社
議題

1. ラグビー部全国大会出場に対する寄付について
六校ラグビー部会長野田忠二郎氏より依頼があり、百万円寄付を決定。(ユニフォーム二組他)
2. 昭和62年度総会の反省と今年度総会について
115周年総会は母校で行う。

第1回常任理事会(昭和63年5月13日) 於 清交社
出席者 上野会長、藤枝校長、田村、緒方、大山、奥田、檜崎、日高、山本、溝脇、丸野、清原、木村、各常任理事。事務局より平、阪田。

議題

1. 昭和62年度会計報告及び昭和63年度予算案

報 告

2. 創立115周年記念総会

11月6日、会場を母校講堂とする。

3. 田村常任理事の辞意表明と善後策。

第1回理事会(昭和63年6月10日) 於 清交社
出席者 上野会長、鴻池副会長、藤枝名誉会長、各期理事及び事務局より 計40名。

議題

1. 昭和62年度会計報告及び昭和63年度予算案承認。
2. 田村常任理事辞任問題を承認。顧問として、今後もお世話願う。
3. 115周年総会について
講堂をパーティー会場として使用することの是非についての議論が出、常任理事会に一任。

会 計 報 告

昭和62年度 六校同窓会 一般会計報告

科 目	62年度予算	62年度決算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	1,978,076	1,978,076	
2. 入会金収入	1,823,000	1,808,000	1,808人×1,000円
3. 年会費収入	7,000,000	7,426,000	3,713口×2,000円
4. 広告収入	200,000	0	
5. 臨時会費収入	500,000	441,000	147人×3,000円
6. 寄付金収入	10,000	0	
7. 利息収入	30,000	5,065	
8. 雑収入	10,000	0	
収 入 合 計	11,551,076	11,658,141	
支 出 の 部	円	円	
(1) 運営費	*4,500,000	*3,587,701	
1. 人件費	1,000,000	600,000	予算超過により予算費より支出
2. 旅費・交通費	200,000	200,000	
3. 通信費	100,000	90,710	
4. 印刷・事務用品費	100,000	45,360	
5. 会費	300,000	293,315	
6. 総会費	1,500,000	1,490,640	
7. 慶弔費	800,000	633,570	
8. 雑費	500,000	234,106	
(2) 会報発行費	*3,920,000	*3,737,769	
1. 編集費	100,000	90,000	年会費振替用紙の宛名の印刷代を含む
2. 印刷費	2,460,000	2,346,509	
3. 発送費	1,350,000	1,301,160	
4. 雑費	10,000	0	
(3) ラグビー部全国大会出場援助費	* 0	*1,000,000	62年12月18日の常任理事会にて決定
(4) 予備費	* 431,076	* 25,050	(112.旅費交通費)
(5) 他会計へ支出	*2,700,000	*2,700,000	
1. 基金積立会計	2,000,000	2,000,000	
2. 名簿特別会計	700,000	700,000	
支 出 合 計	11,551,076	11,050,520	
次年度繰越金	0	607,621	

昭和62年度 六校同窓会 名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前年度繰越金	2,056,825	2,056,825	
2. 名簿売上収入	90,000	93,000	31冊×3,000円
3. 広告収入	0	0	
4. 利息収入	100,000	74,612	
5. 雑収入	0	0	
6. 一般会計より受入	700,000	700,000	
収 入 合 計	2,946,825	2,924,437	
支 出 の 部	円	円	
1. 編集費	0	0	
2. 印刷費	900,000	719,380	註*
3. 発送費	10,000	5,600	
4. 雑費	10,000	50	
支 出 合 計	920,000	725,030	
次年度繰越金	2,026,825	2,199,407	

名簿在庫 前年度残256冊、売上31冊、次年度繰越225冊

註* 名簿台帳の印刷

昭和62年度 六校同窓会 基金会計報告

科 目	決 算	備 考
収 入 の 部	円	
1. 前年度繰越金	45,977,292	大和銀行金銭信託
2. 利息	1,969,267	大和銀行金銭信託
3. 新規積立金	2,000,000	大和銀行普通預金 註*
収 入 合 計	49,946,559	
支 出 合 計	0	
次年度繰越金	49,946,559	大和銀行金銭信託及び普通預金

註* 大和銀行金銭信託へ移管済。

以上の通り昭和62年度六校同窓会会計報告をいたします。

昭和63年4月27日

六校同窓会長 上野 洋 一

上記三会計の正確であることを認めます。

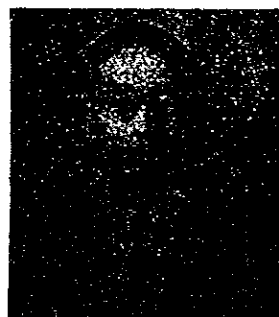
昭和63年4月27日

六校同窓会監事 滝井 尚 三

六校同窓会監事 橋田 圭 兄

北野戦後史

題字 泉 博二校長



—— 連載第11回 ——

凡 凡 の 日 日

泉 博二

修学旅行随聞記

北野高校の修学旅行は、昭和41年まで、女生徒だけのものであった。男子は将来も旅行の機会があるからという校長の意見だったが、まことに隔世の感がある。

昭和37年春は、3月23日から27日まで、北九州方面4泊5日、参加者2年女生徒154名、引率教員5名であった。

旅行団はまず班別編成を行なうが、これは生徒の旅行委員に委せることにした。女子にはそれぞれ仲良しのグループがある。名列順のような機械的操作を行なうとうまく行かない。但し、どの班にも入れて貰えない可哀想な子が出る虞れもあるから、その辺りで学校側の手に移して新たに一・二の班を編成する。よくしたもので、この知らない者同士が旅行中に親しくなり、手を取り合って行動し、時には生涯の友を得ることもあるが、中には最後までムレに馴染まず孤高を保つ一匹狼もいる。

23日はまだ夜も明けないうちから天保山棧橋に集合する。集まった生徒は新鮮な感じで、北野二美人ナシという俗説を怪しむばかりである。肘や尻の辺りが垢で光ったふだんの制服ではなく、クリーニングのきいた、または余所行きの制服を着て、つつましい白のブラウスや手提鞆、靴下のはしに至るまで、どこことなく装いを凝らしているからであろうか。

船は関西汽船のむらさき丸で、東北流りの男子農業高校生と同船だが、早くも男の子につかまっている子が

ある。何をしているのか、傍らをすり抜けてみると、写真に入ってくんねか、等の野太い声が聞こえる。生徒の船室は船底の大部屋で、仕切りはあってないようなものだから、やはり侵入して来る。ここは君たちの来る所でない、自分の席に帰れ。ちよっと遊んでくれと言ってるだけでねか、となかなか動きそうにない。やっと追い払ったところで蠅を追うようなものだ。御同業の誼みで言い付けるのは控えていたが、たまたま先生らしい強そうな種菜頭に行き会ったから、かくかくしかじかと陳情に及ぶと、ぬっと拳を固めて下りて行った。この女子高の腰抜けめと言う声を聞いたのは、ひが耳だろう。

上甲板の食堂では、広い窓の外を鷗が飛んでいる。碇子玉のような目を光らせながら窓すれすれに滑空するものもある。遠かな四国の山容が緑をゆっくりと移動させている。この上もない上天気。

右に左に島が動く。むかしの尋常小学国語読本に瀬戸内海を敘した文があったが一瀬戸内海には到る処に岬あり湾あり。大小無数の島々各所に散在す。船の其の間を行く時、島かと見れば岬なり。岬かと見れば島なり。一島未だ去らざるに一島更にあらはれ、水路きはまるが如くにしてまた忽ち閉く——とその名調子を懐かしく思い出す。

丸い船尾からは、スクリーンが泡立てた一筋のみおが、どこまでも続いており、小魚でも浮くのか無数の

鷗が、遠く小さく舞いながらあとを慕ってくる。ベンチにかけたり手すりにもたれて髪を風になぶらせている子が多勢いるので、どうだもう入って来ないだろうときけば、いやだから出て来ているんです、と日頃から文句たれの子が赤い頬を膨らます。和尚の拳骨も、吾等が姫君の妖しい魅力には勝てなかったものと見える。

ところで、穏やかだったのは瀬戸内だけのことで、豊予海峡にさしかかる頃から雲行きが怪しくなった。いつの間にか低気圧が接近していたのであろう、上空をうす鼠色の雲が乱れ飛び始めた。遠かな暗い南の海から、大波のうねりが際限もなく盛り上っては、白い牙をむき出しにして、左舷めがけて寄せて来る。ひときわ大きな水塊がぶち当たる時、船はギイギイと悲鳴をあげ、下甲板は一時海水の河になる。数千噸の巨体も傾いて、ローリング、ピッチングが始まった。

船室では10人余りの生徒がうずくまり、背中をさすって貰っている。ゲロを吐いた子もいるようだ。しかしどうすることもできない。農高生もすっかり骨が抜けて、ナメクジのように床にべったり伸びたり、柱にへばり付いて青い顔をしている。一方そのまん中で、ひたすら弁当をばくついているバケモノが一人いた。船底の生徒の数がいかにも少い。介抱している子によると、みな甲板に出たと言う。

階段を駆け上ってみると、船室と救命ボートとの間の狭い右舷甲板に、数十人の女生徒がびっしりと詰まり、目を怒らせ互いに腕を組み、足を踏み鳴らして合唱している。

折りから朱肉色の凄惨な落日が、沖を金色に沸き立たせて沈むところで、闇に吞まれた不気味な海は、俄かに高くせり上るかと思えば忽ち崩れて、暗い底へと船を引き込む。その瞬間、舷灯に照らされた白い波しぶきが、扇のように広がって少女たちの横手を走り過ぎる。雨も降って来たようだ。歌うのよ／歌うのよ／歌い続けるのよ／と、ボスのA子が絶叫している。

一瞬たりとも声をとぎらせ目を逸

らしでもしたら、船酔いの海魔にとりつかれると信じきっているらしく、目をみはりひたと正面を見つめて、必死に歌を歌っている。体も浮く上下動、轟きわたる波と風。歌詞を吹き千切れつつ命の限り歌い続ける女学生愛唱歌。可憐な女声二部合唱。とうとう校歌まで歌ってしまった。

その夜は観海寺温泉に泊り、翌日はバスに乗って地獄めぐり、竹田を経て関城址で昼食、小雨模様でひどく寒く、冷たい折詰がとても喉に通らない。こういう時は甘い熱いものに限るのだ。坊中を経て阿蘇山頂に登る頃はとうとう吹雪になった。吹き飛ばしで耳も口も凍えるから、たまたま持っていた紫色の風呂敷で頬を覆って下山すると、お茶っぴいのB子が目ざとくみつめて、あれあれ、あの顔あの顔と頬を押さえて二つ折りになり、転げるようにしながらはやし立てるので、余所のへんなオッサンにまで嗤われた。まじめでおとなしい勉強家の子だと思い込んでいたが、実はほんでもないお転婆だったのだ。ふだんは見せない素顔をこうして識るのも、また旅行の愉しみである。この子は後に大学で勉強して学者になった。

内牧の宿では早速風呂に飛び込む。プールのような湯の中に男4人。平泳をした者がある。隣りは大変な混雑らしい。盛んに嬌声が上がり、湯の溢れる音がする。洗桶を下に置く音が、がらんと天井にカーンカーンとひっきりなしにこだまする。小さな宿で全館借り切りだから、早早上って男湯も開放することにした。

10時消灯だが結局11時になり、見送って来た先生が、やっと寝ましたと言うので、手拭ぶら下げ風呂に行く。

脱衣場の板戸をがらりと開けると、半分裸の子がいたので吃驚仰天。そういえば女湯の方でも、がやがやという人声や、アハハハハハという人も無げな高笑いが聞こえる。女中さんかも知れないが。

この別府でチャーターしたバスで、熊本を経由フェリーで渡海、多比良、島原から雲仙泊、大村湾一周コース

をとって佐世保、西海橋そして長崎とお定まりのメニューだが、ケチな学校で、バスの台数を減らしているから、どのバスも満席で、教員といえども二人分の座席を占領してふんぞり返っているわけにも行かない。

その上、教員の乗車するバスが固定しないよう、ローテーション方式を採ったから、入れ替り立ち替り色色な子が横に来て座る。一匹狼も来て座る。お菓子をくれる子もあるが、皆前の夜寝ていないから、すぐに居眠りを始めてしなだれかかってくる。邪慳に突き飛ばすのがスジであるが、そういうわけにも行かず、まあこちらでも眠ったふりをする。狼などは、ひなた臭い顔を背広の肩にひっ付けて安心して眠りこけている。図々しいんだ、この子は。

ところで案内役のバスガールだが、どれもこれも昨春高校を出て入社したばかりの新米で、台詞を覚えていないから虎の巻の棒読みばかり、おまけに時々場所を取り違えて運転手に注意され、このコースは初めてなのでと弁解のお粗末、これでは落第、単位はやれない。

旅ずれして、この旅行を計画段階から勝手に牛耳っているC先生が、これでは学習にならんと怒り出し、よせばいいのに、交替させると会社にねじ込んだ。先方は、生徒さんと年も近いし喜ばれると思った等と釈明したらしいが、とうとう次の停車地から新手を入れることになった。

さすがに社運を賭して乗り込んで来ただけあって、これが揃いも揃って全国コンクール級のゲテモノ、千軍万馬の悪達者で、壊れた蛇口から水が迸り出るように、のべつやたらにまくし立てる合間に、ジャズを唄うわ民謡を唄るわ、ゲームを始めるわ謎解きを強いるわで、片時も休ませない。あまりのうるささに瞑目していると、悪い奴ほどよく眠ると申しまして、などと冷やかす始末。

一方新米は旅の途中でもあるし、会社から少しは見習えとでもイヤミを言われたのだろうか、下車するわけにも行かず、さりとて二人乗務になっても、姉さん株が髪振り乱して

千手観音か阿修羅の大活躍中ときては、さらさら出番が無く、屈辱と孤独に打ちひしがれて乗降口の処にうずくまり、ハンカチを取り出しシクシク泣くという事態になった。

えらく同情したものと見えて、いよいよ別れる時になると、どのバスでもどのバスでも、降りるなり見習いを取り囲み、手を握り肩を抱いて、みんなでオイオイ泣いている。見習いに触ることの出来ない子は、輪の外で生徒同士抱き合って泣いている。ベテランにはツーンと知らぬ顔。いやその傾斜の厳しいこと。

無事バス旅行をすませて、長崎は十六番館で夕食。午後7時集約旅行列車に乗車、一路帰途に就く。他の学校は途中から乗り込んで来るのだろうか、よく空いていて二客車独占、車中泊大阪まで20時間の旅である。

ところが汽車が動き出して間もなく困ったことになった。便所が完全に詰まってしまったのだ。車掌に言えば、何でも彼でもほうり込むからだよ、だから女の子は困るんだとけんもほろろ、おまけに博多のような大きな駅まで行かないと修理工がいけないと言う。他の客車は男子校の泊外法権下にあるから利用できない。そんなことをしたら向うからも入って来るだろう。犯人どもは知らぬ顔で平然と飲み食いしているが、こちらはもう気が気でない。

集約旅行列車は定時運行のダイヤの間を縫って走っている。後ろから急行でも来ればすぐさま小さな駅に待避する。かと思えば何時間もひた走りに走ることもある。停車したかと思ったらひよいと走り出し、なかなか出ずに何十分も腰を据えていることもあり、まことに信用できない。そのうちにだんだん溜って来てはち切れそうになった。汽車の震動が一々こたえて、次第に顔から血の気が引いて行くのが分かる。全身の膚が栗立ってくる。背陰の中を暗く冷たいものが、すうっと過る。まあ一度経験して下さい。

突然小さな駅に停まったから、これ幸いとホームを最後尾まで駆けて行き線路に向って構えたが、栓を余りにもきつく締めつけて来たので、

ちよっとやさそとでは出て来ない。そのうちガタンと汽車が動き出し、ダブダブの水枕が入ったような下腹を押さえ押さえ、あたふたと後を追いかける。余計なことをしたために一段と苦しくなる。最早痛みを通り越して気が遠くなって来た。もうだめ。ああ我慢も体面もこれまでと覚悟した時、おお天は自ら助くる者を助く、大きな駅に着いたではないか。便所に翔んで行き心静かにひとけは、今度はどうにも止まらない、水路きはまるが如くにしてまた忽ち開く長き哉。

さっぱりして汽車に戻る。都合よくすぐ発車する。犯人どもも手早く用を済ませたらしい。

そのうちに突然客車の中ほどでキリキリッという声がかして、しかも音程が次第に高まって行くので、何事かと思ったら、あるグループ専属の男子のグループに、別のグループが断りもなく絵葉書を出したとかいうつまらぬことで、十数人が入り乱れてもめている。ボスのA子が、その子をここへ連れておいで、と凄んでゐるから、えらいこっちゃと肝を冷やしたが、そこは賢明な女生徒たちのこと、いつか腰くだけになりうやむやのうちに終わってくれた。A子は早く結婚し、夫は政治家になりやがて大臣になった。

山陽道に入った頃は、夜も明け放たれ、便所も開通、汽車は快適に走り続ける。あちこちでトランプが始まる。同じ顔ぶれで繰り返すのに飽きたのだろう、先生来い来いとうるさく言うから、一度だけだぞと思に着せて仲間入りする。向い合った4人の膝に小さなスーツケースを乗せて、ナポレオンやブリッジをやる。小娘ききと侮たら（大方勉強もしないでトランプばかりやっているのだろう）頗る上手、連戦連敗の憂きめにあった。周囲には見物の人垣が幾重にもできて、何だか金魚鉢の底の泥鰌のようで、おまけにま上の金魚どもが酸素をすべて吸い取ってしまうのか、次第に息苦しく呼吸困難になって来た。あまつさえへまをやると、ダメッと叫んで背骨をひっぱたいたり、肘で肋骨を小突いたりす

るヤツ（複数）が出て来て危険になったから、今日はこれでおしまいと怒鳴っておいで、這う這うのていで教員席に逃げ戻った。二度と呼びに来なかった。なに二度と行くものか。しかるに旅行後のアンケートの末尾に、先生たちが一緒に遊んでくれなかったのでもうなかった、という感想が何度も付記されていたのは、どうもよく解らない。この年の金魚は豊作で才媛が多かった。その中のある子は数多の男子を泣かせて弁護士になった。

さてこの頃になると、教員は皆疲れ果てており、いつも夢うつつの状態で、私なども肘掛を枕にひっくり返っているところを、かっちり写真に撮られてしまった。

ある時うとうとしながらふと目を開けると、前の座席の妙齡のD先生が隣の若手のE先生の膝の上に、ぼさりと打ち伏して眠っているではないか。E先生はと見れば、腕組みして目をつぶり世にもむづかしい顔をしてゐる。彼女はすぐに気付いてパネ人形のように跳ね上がり、目をパチクリさせていた。氣だてのいいおっとりした先生で、その翌年E先生と結婚した。お節介をやいたのは勿論旅ずれ先生である。

岡山からは男子校がどっと乗り込んで来て車内は大混乱。独占中の我が校も数列の座席を明け渡す。今度も男の子が、綺麗な子ばかりやびつくらし、とか何とか言って、積極的に割り込んで来る。女の子がちょっと立ったすきに、そこへ座ったり、汚い尻を肘掛に乗せたりするが、もとより北野の男子を見た誇り高き女性たちのこととて、ハナもひっかけない。しかし余りにもしつこいので、E先生などは通路のまん中に仁王立ちに立ちはだかって、即席衛立に化けたほどだった。

27日午後3時7分、予定どおり大阪駅着、解散。疲労がどすんと肩に來た。大きく伸びをして、やれやれやっと終わったか。いやまだわかりませんよ。どうして。だって迎えに來たアホ（男生徒の）がいましたよ。ははあ、例によってコンパをやるつもりだな。それにクラブ（活動）を

やりに学校へ帰ると言う子もいましたよ。ああ百里に行く者は九十に半ばすと言うけれど、そのエネルギーには呆れるな、中年はもう参ったよ。

波の音車輪の響きの通奏低音はなお聞こえていた。

昭和44年4月～45年3月

昭和44年4月1日 学校が始まるこの4月1日はいつも生温い風が吹いて、早い桜の花びらがグラウンドに舞っていることもあり、華やかで何かものうい春の日である。恒例の入学式は10時からだが、早朝から多数の新聞記者がカメラマンを従えてやって來た。「何かあるんですか」と露骨に訊く者もいた。何かを期待しているふうである。しかし入学式は何事もなく終了し、最後まで旧図書館の前で粘っていた記者も諦めて帰った正午頃、日の丸の旗にいたずらをしている者がいるという知らせが來た。指導部の部屋を出て裏門に行くと、竿ごと引きずり下ろされた旗に緑色のペンキで、北野帝国主義粉砕とタテカン流の文字でいっぱい書いてある。数名の下校中の生徒がこれを取り囲み「こんなことをしていいんですか」と憤慨している。これをやったのは若い女で文化部室の方へ行ったと聞いたから、折よく来合わせたA先生と行ってみると、手は同色のペンキで汚した女生徒のBが中にいた。はじめは否認したが、A先生の一声で素直に私がやりましたと言った。口は重かったがその語るところによれば、この日生徒のある集団でことを起こす手筈になっていたのに、いざとなると尻込みしたのか他の者が集合しなかったで、ただ一人この挙に及んだのだという。Bは2年生当時生徒会会計役員として熱心に仕事をやり、指導部にもよく出入りしていた生徒である。しかしこの時はもはや別人のようであった。

前年の昭和43年は大学紛争の最盛期で、この1月、かの安田講堂攻防戦があり、東京大学の入試は中止された。紛争の波は全国の高校にも及び、大阪でもヘルメット姿の生徒の活動が活発で、43年9月には市岡高

校で始業式妨害と校長室占拠があり、この年に入ってから、2月に阪南高校で卒業式妨害と学校封鎖、茨木高校で卒業式妨害と式場封鎖、3月には高津高校で終業式妨害などが相次いで発生していたから、何れは北野でも何かが起きる可能性はあった。なおこの後4月8日に、高津高校で始業式妨害と校庭デモ、池田高校で入学式妨害があったから、本校でのこの出来事はそれらと一連のつながりを持っていたものと思われる。ところで記者らが早朝から来校したのは電話の予告があつたことで、これはどの事件の時にもおおむね行なわれており、学校紛争の劇場性をよく物語る事実なのである。

6月7日 社研、弁論、新聞の三部から、文化祭の講演者として京大教授井上清氏を招きたいという要望書が提出された。これに対し講演者を本校卒業生の中から選ぶことは確立した慣習である旨回答し、12日の職員会議においてもこれを確認したが、社研部の生徒Cが既に某結社の活動家を通じ同氏の承諾を取り付けていると聞いたので、15日曜日、社研部顧問とともに同氏を自宅に訪問した。ところがCは平生偽名を用い、かつ市岡高校生を称していたので、その名で連絡されており、井上氏は初めてこれが北野の問題であることを知ったのだ。そこで同氏は「市岡に行くとは言ったが北野に行くとは言っていない」と答えて、当方の申し入れを了解した。

この頃、Cは無断欠席中で、6月8日アスパックデモに参加し、凶器準備集合罪の容疑で機動隊に逮捕され、静岡の警察署に勾留中であり、漸く19日、両親の問い合わせによって身許が判明し釈放されたのである。翌日、教授の言葉を生徒に伝える。17日、これに不満なD、E、Fの三生徒が井上宅を訪問する。教授は「行く」と約束したという。

価値観が異なっているのか、常識という凡庸な先入主が通用しないことが判った。18日じかに教授に会うよう校長に勧めるがなかなか動かない。19日、生徒会と協議。20日、教授に電話し明確に謝絶の意思表示を行な

うが、「行く」と返事した、だから行く」と言う。もう時間がない。片を付けておかないと当日ややこしいことになる。直ちにアポイントメントを取り、21日、漸く文化祭前日に、校長を加えて三人で再訪した。生徒が来たかと思えば今度は管理職が膝詰談判にやって来た。へんな学校だ、しかし他にどんな方法があるだろうか。教授はおもしろくなかったに違いないが、結局折れて「明日は行きたくない、理由は生徒に言う」と言った。しかしこれまでの経過から見て安心はできない。そこで「その代りというわけではないが、適当な時機に学校が正式に先生を招待しましょう」と独断で付け加えた。帰校して教授の言葉を再び生徒に伝える。

22日、文化祭当日は、万一の場合も考えて朝から緊張していたが、間の悪いことに卒業生の講演者が大幅に遅れて講演時刻に現れない。その同じ午後2時30分頃、教授は阪急十三駅まで来て生徒に会ったという。文化祭は湿度の高い梅雨の頃で毎年汗をかくが、この日は35年4月、私が北野に来てから最もむし暑くて永い一日だった。

文化祭が無事終了したあとの某日、校長は「井上氏の講演はもうやめてもいいのではないかと提案した。「約束ですからそういうわけにはいきません」と答えた。

26日、井上教授は講堂において、「大学紛争の歴史上の位置」と題する講演をおよそ1時間40分に亘って行なった。講演後の質問は二件、いずれも平凡で司会者としては少々落胆した。ただ教授は講演の中で、大学紛争は間もなく終熄するだろうと予言した。そしてそのとおりになった。70年安保を目前にして、学生運動はいよいよ激化するだろうと誰しも危惧していた頃のことである。一方すこし後れて始まった高校紛争はこれからピークを迎えるが、これもほぼ一年でやはり鎮静化するのである。紛争の背後に働いていた「見えざる手」は、一体何であったのだろうか。

7月21日 アポロ11号月面着陸、アームストロング船長月面に第一歩。

9月1日 十数名の男女生徒が校庭での始業式に出席せず、野球のバックネットにタテカンをもたせかけてたむろする。初めて生徒の集団がその姿を現わした。その場に行き「式に出よ」と言う。「出ません」と言う。押し問答をしているうちに式が終る。

9月11日 校内水泳大会第1日、予選。午後6時怪しい貼紙が校内至る所に貼られているとの知らせ。教頭も学校にとって返す。直ちに無届のビラを撤去する。職員便所の男子用朝顔の中にまで貼られているのを見て、われにもなく笑ってしまう。

9月12日 水泳大会第2日、決勝。午後6時夕食のため帰宅途中、西側のコンクリート塀を乗り越えようとする数名の人影を発見、宿直中の先生に通報、校内に入ったところをG先生がつかまえる。生徒である。

この頃から不穏な情報が入る度に、教頭を初めとして多くの職員が学校の警備に当たった。この日も8名宿直していたのである。これらの進んで宿直をした職員のこと、とくく忘れられ勝ちであるのは残念なことだ。教頭のJ先生はもう亡くなった。

所謂高校紛争の期間中、この学校では授業も諸行事も支障なく行なわれたのであるが、それは伝統的に授業を大切に作る風が、職員の間に、そして生徒の間にも浸透していたからであろう。

9月16日 清水谷高校がヘルメット生徒に封鎖される。府教委は18日付で「高校生の政治活動を禁止する通達」を出す。これが10月31日付の「文部省見解」とともに、活動家生徒に絶好の攻撃目標を与える結果になった。指導部も生徒の求めに応じ、講堂その他で度々その質問に答えた。

今や高校生も頻繁にデモに参加するようになった。高校生だけのデモも生まれた。群衆の見守る中旗竿を横に構え、数人宛隊伍を組んでジグザグデモをする時、その幼い顔にはある法悦と醜態が見られる。

9月24日 夕陽丘高校が学校を挙げて府教委通達反対の声明を出す。他にも同調する高校がある。

生徒がデモに参加していると思わ

れる日は、指導部の先生たちとともにデモ隊の集合地点から解散地点までつき合ったが、ある時、デモ隊に沿って歩いている一団の顔ぶれが常に似通っていることに気がついた。大半は教員であろう。他は私服かマスコミか、それとも支援者か、または単なる野次馬でもあろうか。とにかくこの得体の知れぬ無言の一団が、デモ隊にぴったり寄り添ってぞろぞろと歩道を行く光景は異様であった。

街路樹のプラタナスが頻りにざわめいて、舗道の枯葉が乾いた音をたてていたある初冬の日の午後、大阪赤十字病院南側の道路で、デモ隊が突如ジグザグデモを始めようとして、機動隊に烈しく規制されたことがあるが、ぶざまにも逃げおくれでデモ隊と商店入口のシャッターとの間に挟まれた。デモ隊の塊は非情の凶暴な圧力となって、胸部にのしかかった。息もつけぬその時、シャッターが轟音とともに崩れ落ち、どっと店内に投げ出された。

デモ隊はしばしば解散予定地に近い繁華街の十字路で違法デモにうつることがあった。既に日の暮れた街頭に、警察は巨大な灰色の装甲車を幾台も進出させ、その屋上から幾条ものサーチライトを煌めかせ、性能の良いスピーカーで、デモタイハイマスグイホウナデモラヤメナサイと連呼した。その声は周辺の高層ビルの壁に鋭く跳ね返り、鉦物質の音響となって運満した。地上ではデモ隊が呼子を吹き旗竿を打ち振り、ワッショイワッショイと負けずに喚声を挙げつつ、渦巻デモを繰り返す。行手を阻まれた数十台の自動車が一斉にクラクションを叩きまくり、白い指揮棒に導かれた機動隊の一団がザックザックと編上靴の音を轟かせつつ接近してくる。あの熱闘の渦の中に本当に生徒たちはいたのだろうか。

10月21日 所謂国際反戦デー。各地でデモが荒れる。この前後から他の高校で封鎖、占拠、団交要求、校内デモ等が頻発していたから、なかなか下校し難い日がふえて来た。一旦帰宅しても、何か変事があれば電話するよう警備員に依頼しておいたから、深夜に人気のない学校へ赴く。

いつも何かがあった。部室の中から鍵をかけて隠れていた者があった。東側の高いコンクリート塀に跳びついて逃げる人影を目撃した。またデモ爆りに生徒が外から投げ込んだり、あるいは屋外に放置している反戦高協の赤いヘルメット、赤い旗、青い旗、ゼッケン、ゲバ棒等々を多数拾得した。それらの一部は今も学校に保管されている筈だ。

11月6日 昼食後、第二体育館に通じる渡り廊下の屋根にタテカンを立て掛け、コンクリート上に毛布を敷き生徒B、C、Kが「文部省見解」と「府教委通達」に抗議してハンストを始めた。この日ハンストを計画中であることはM先生から聞いて知っていたが、恐らく放課後からだろうと油断していたから、些か慮をつかれた感がある。現場に行き第5限の授業に出よと命ずるがきかない。多数の生徒が取り巻き中には声援を送る者もいる。どうあっても今日中にやめさせなくてはならない。長びくことは面倒だ。直ちに保護者を呼び、各組担任とともにまず別室で、時に合同して説得を続ける。午後10時、三人とも親に手を引かれるようにして帰宅したが、女生徒のBだけが舞い戻って部室でハンストを再開する。然し結局それまで校内に止まって成り行きを見守っていたリーガーのDとタテカン書きの名人Fが説得して午後11時下校、同夜この三人は東淀川高校の生徒の家に宿泊した。

翌11月7日早朝、この三名が宿泊先から登校して、またもや新規のハンストを始めるが、宿直の先生が発見、担任が説得して午前11時までに中止させた。Bは昨日の昼からまだ食事を摂っていなかった。

結局ハンスト騒ぎはこのような経過をたどったが、組担任と親の努力が実を結んで、初日のハンストをその日のうちにやめさせることができた。担任のN、P、Qの三先生は日頃から生徒に信望があった。だから中止できたのだ。事実、生徒は学校には別に何の怨みもない、「見解」と「通達」に抗議したいだけだと言っていた。そのN先生も今は亡い。

またこの時、通報によったのであ

ろう、多勢の新聞記者が取材に来たが、ある記者は、指導部室内の職員会議の場に強引に扉を排して入りこみ、「学校の方針を知りたい」などと言い、厳しく退去を求めても容易に応じようとはしなかった。

11月13日 府高教一時間の時限スト。Dらの集団が北野分会支援のビラ、タテカンを出す。

11月14日 生徒会役員選挙立会演説会。Dらが長々とアジ演説をやり、時間切れ翌日投票の結果は、白票多くやり直しになる。

11月24日 再選挙。これも同様の経過をたどり、定時制の始業時刻が迫ったので解散を命じた。結局後期生徒会役員は選出されなかった。

12月1日 かねて生徒らに学校を封鎖されている東淀川高校が、半月ぶりに授業再開を目論むが、封鎖生徒の妨害にあい不成功に終る。東京では既に高校にも機動隊を導入している。

12月5日 会則により生徒総数の5分の1以上の署名を集めて、有志の名で臨時生徒総会の開催を求めてくる。しかしその中核をなしていた所謂活動家の数は同調者を加えても30名内外で、その高揚時にも50名を超えることはなかった。

12月17日 同上臨時総会。11月14日からの一連の出来事は、生徒会全体を運動に取り込もうとする動きの現われであるが、3年生の元気者ハチマキことRを中心とする議長団が生徒会の正常化をめざし、縦横に活躍して、策動するグループに乗ずる隙を与えない。

この日、某高校が本校の被服教室でひそかに職員会議を持つ。知り合いの教員らを見る。表情は一様に硬い。この学校は教科指導に熱心だった。そのことが却って裏目になり紛争を呼んだのだろうか。

12月22日 午後4時頃、3階の教室で火災発生。居合わせた全定の職員で消火する。白煙濛々廊下にたちこめる。消防、警察が来る。

12月24日 終業式。Cが部室で他の生徒とウイスキーを飲み泥酔しているのを発見、保健室に保護する。忽ち嘔吐する。

東淀川高校はこの日漸く授業再開にこぎつける。これから失われた授業日数を取り戻さねばならない。

12月27日土曜日 職員会議。指導部提出の懲戒原案は、その前日3時間余の討論のあと票決に付し、Cについては10対4白票1棄権1で「退学」である。

昼食後12時30分に始まった会議は、午後5時30分、校長が退学の決定を下して終了した。しかし、何か釈然としないものが残った。これは理屈でない、勘である。多数意見であることは、はっきりしていたのだが、ここまで曲りなりにもまとまってやって来たのに、割れるようではこれからやりにくい。卒業式も入試も控えているしまだ先がある。思い切った手に出なければならない。会議室を出て暗い廊下を、校長が待つ校長室に急ぎながら思索した。

校長室には申し渡しの時刻を聞きに担任のP先生も来た。その場で、執行をしばらく待つよう力説した。校長は驚愕の面持ちだったが、やがて無言でこれに応じた。

12月28日 総選挙。社会党は大幅にその議員数を減じた。

12月29日 夜の高速道路をP先生の車でCの家に行く。退学に決定したことを告げ、深く反省してその実をあげるように言う。母親は素早く反応して、よく反省させると言ったが父親はそうでない。自棄的な言葉を吐き忿怒をぶちまける。だめだと思った。しかし忍耐した。

昭和45年1月7日 臨時職員会議。執行延期の件。反対意見は、ない。

2月18日 職員会議を持ち、従来の古典的卒業式次第を、証書授与、校長式辞、校歌斉唱だけの最も簡素な現行の式次第に変更する。

2月25日 卒業式。8名の生徒が食堂に残留するのみで、式は無事に終了した。

なお清水谷高校では、赤ヘル姿の生徒らが殺虫スプレーに火を付け、消火器の液を撒き散らすなどして式を妨害し、枚方高校では、壇上の校長に対して生徒の大部分が一斉に後ろ向きになる等の珍事が報道されたけれども、おおむねこの時期をもっ

て大阪での所謂高校紛争は下火に向い、北野でのゴタゴタも全く影を潜めた。Cは結局少し後れて卒業証書を手にした。

ところで何かことが起きてからでは、それをどのように処理しようとも失策であることに変わりはない。かと言って手を拱いているわけにもいかない。未然に防止できたとしても、それは初めから何もなかったことと同じである。教員の生活指導の仕事というものはそんなものである。誰しも沈黙するわけである。

従ってここには素朴な事実だけを書いた。事実だけが、時間の摩耗に堪えることができると思う。

そしてこれはしんじつ蛇足であるが、こうして出来事だけを摘記すると、この一年がさほど大変であったかのような印象を与えかねない。しかし閑ときどき忙がその実態であった。生徒諸君も同様であっただろう。い

ずれにせよこれは教員の側から見た記録である。

3月15日 大阪万国博EXPO'70千里丘陵に開幕、初日の入場者26万人。

3月31日 昭和38年以来つとめていた指導部主任を辞した。共産同赤軍派が日航機よど号をハイジャックしたのはこの日である。本校の卒業生某が首魁であったあの衝撃的な連合赤軍事件は、まだ見えていなかった。

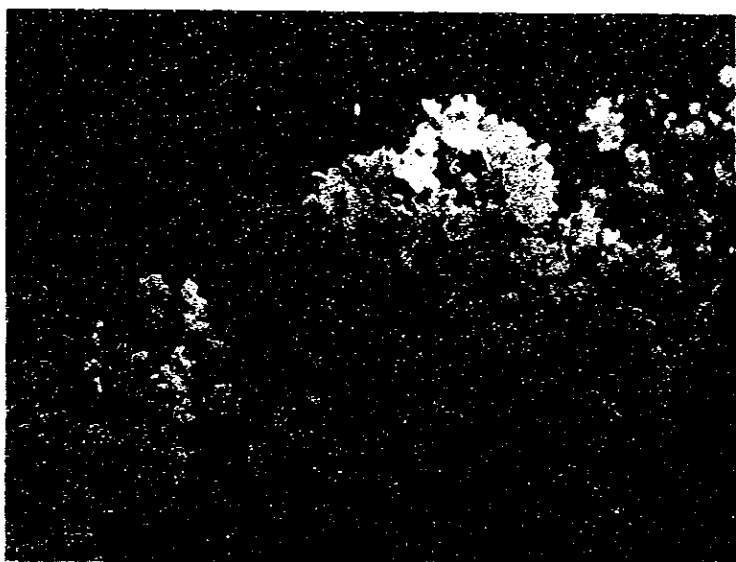
以上

いずみていじ先生略歴

大正12年、兵庫県三原郡のお生まれ。旧制福岡高校文科甲類、東京帝大法学部政治学科卒業。兵庫県立三原高校、大阪府立東住吉高校を経て、昭和35年、本校英語科教諭となり、同46年、教頭、同49年、校長。同58年、御退職後は金蘭短期大学日本国憲法常勤講師。同61年、同短大教授。

故 笹部新太郎翁 (17期) の遺作

笹 部 桜



岡本南公園桜守会世話人 戸澤正雄氏 (63期) 撮影

ラグビー部 全国大会出場の快挙!!



創部65周年に 花!!

自見弘之監督(70期)

六稜ラグークラブ
比山 實 二(63期)

我がラグビー部が遂にやってくれました。本当に永い
永い苦節の45年間であります。最近の数期間は、大阪
に於て常にベスト4、ベスト8に進出する力を備えてい
ましたが、その都度今一步の所で涙をのんでいました。

先輩達の熱い期待に応え、自見弘之監督(70期)田中伸
明先生の強力な好指導の下、現役諸君は小柄軽量ながら
他校との体格差を恐れる事なく、マスコミの大フィーバ
ーにも臆することなく、自主的な練習計画によりスピー
ドある集散と頭脳的プレー、粘り強いディフェンスによ
って全国最激戦地の大阪予選を勝ち抜き、大阪第一代表
として、実に46年振りに昭和62年度(第67回)全国大会に
出場を果たしました。

全国大会に於ても六稜健児の意気を遺憾なく発揮し、
一戦ごとに逞しさを身に付け、全国区に北野ラグーここ
に在りとの大きな印象を植えつけてくれました。残念な
がら3回戦において優勝候補伏見工高(京都府代表)に惜
敗したとは言え、その内容において相手を大きく上回り、
終始自分達のラグビーを全うし、涙一つなく爽やかに花園
を去って行きました。この北野ラグビーのプレー、マナ
ーこそ高校ラグビーの真髄であります。

之も偏に同窓会会員諸子並びに松下校長を初めとする
諸先生方、生徒諸君の暖い御声援の賜物であります。尚
その上に同窓会より百万円と言う多額の御寄贈を受け、
感謝の念で一杯であります。この御寄贈金は遠慮なく有
難く頂戴し、全国大会出場用のユニフォーム(正副2組)、
ボール等用具の購入費に当てさせて戴きました。

応援の後、スタンドの掃除をして下さる等、北野のマ
ナーの良さは大会関係者の賞讃的であり、北野出身の
大会役員として非常に面目を施し感謝しております。又、
元旦は花園ラグビー場開設以来初めてと言う未曾有の二
万人の観客を集め、満員礼止となった為にわざわざ応援
に来て戴きながら入場出来なかった方も多数あり、紙面
をかりて深くお詫び申し上げます。

最後に大阪予選及び全国大会の戦績を記して、感謝の
気持ちに代えさせて戴きます。

●大阪府予選

第1回戦及び2回戦は本校が第一シード校(春季府大
会に優勝して獲得)のため不戦勝で3回戦からの出場で
あった。

●第3回戦

39 { 9 - 0 } 0 東豊中高 昭和62年11月8日10時45分 K.O.
於：東豊中高

前半小細工に走って仲々得点に結び付かず手こずった
が、後半ボールを左右に散らして着々と点差を上げた。

●第4回戦

7 { 7 - 3 } 3 都島工高 11月14日16時2分 K.O.
於：大阪城ラグビー場

相手 F.W の重量にプレッシャーを受け、ボールの獲
得率が極端に悪く、取っても良いボールが出ない為に攻
撃の形を作れなかった。しかし、わずかのチャンスを生
かしてトライを取り、後は粘り強いディフェンスで相手
にトライを許さず、最小得点を守り切った。

●準優勝戦

27 { 21 - 0 } 0 夕陽丘高 11月22日10時55分 K.O.
於：花園ラグビー場II

相手は似たタイプのチームであったが、試合の組立て、
チャンスを生かす力、個々の技術、スピード等技術の端
々に一日の長が見られ、着々と点差を上げて、固い守り
と相まって今日迄相手をノートライに封じて、危げなく
優勝戦へと進出した。

●優勝戦

25 { 15 - 6 } 6 牧野高 11月29日11時4分 K.O.
於：花園ラグビー場I

(メンバー)

F.W				H.B				T.B		F.B		(交替)	中谷	
弓	吉	中	竹	青	吉	木	田	宮	豊	橋	幸	林	栗	松
場	田	谷	本	藤	田	下	畑	内	島	下	田	山	林	松
宗	友	昌	芳	剛	智	博	章	修	弘	徹	崇	生	一	人
隆	健	一	司	紀	章	彦	章	修	弘	徹	崇	生	一	人
③	③	②	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③

予選当初より負傷者が多く、試合毎にメンバーが変っ
たが、ここへ来て初めてベストメンバーが揃った。普段、
スロースターターであったチームがこ一番のゲームで
堅くなる事もなく全力を出し切り、開始早々より快調に
飛ばして得点を重ねた。幾つかのピンチも的確なタック
ルで防ぎ、速い展開と粘り強いディフェンスの持ち味を
遺憾なく発揮して、優勝戦と思えぬ点差で快勝。実に46
年振りの快挙となった。

●全国大会

●第1回戦

23 { 8 - 4 } 7 北見北斗高(北北海道代表)

昭和62年12月28日10時3分 K.O.
於：花園ラグビー場I

試合前、選手達は今迄に見せた事のない緊張に捕われ
て居た。北見 F.W は平均体重差 8.8 kg の重量を利して
北野 F.W を押し潰しにかかり、10分近くに渡ってゴール
前に押し込められた。しかし F.W が良く粘り、バッ
クスが好タックルで助けて耐えに耐えた末に、相手の一

想 出

題字 阿部俊一先生

ああ嬉しきや北野高校のラグビー

川瀬 勇 (39期)

(農学博士 日本ニュー・ジーランド協会副会長)

母校の北野高校のラグビー・チームが全国高校大会に出場するというニュースを聞いた時には、私は小躍りをして喜んだ。昨年12月28日の対北海道北見北斗高校戦には花園へ出かけた。北見北斗は名だたる強敵である。

試合が始まって、まづ驚いたのは、体格の良いフォワードを相手に、ひけをとらぬのは北野のスクラムの低姿勢であった。これは良いコーチを受けていると感銘を深くした。

そうしているうちに、栗山君(10)の快走ぶりにつづいて、橋下君(11)の突進のトライである。私は感嘆の声をあげた。全くのラグビーの真髄を発揮した好プレーで、80才の老人ながら、感に耐えず、涙をこぼしてしまった。

1月1日のマッチは残念至極であった。2つのキックが成功していたら勝てたかも知れないが、数キロも体重が違うというのに、良く頑張ってくれたのは、前述をしたようなフォワードの低姿勢であった。

帰るとき、私は勝った伏見工高の選手団の横を通った。すると選手が一同となって、勝つていながらオイオイと泣いていた。あまりの感激であったのであろうが、私は、むしろ負け戦であったのに北野に辛勝をした涙であったと見てとった。

しかし、実に北野は立派な戦いぶりであった。よくやってくれた。嬉しい。先輩として諸君の働きを祝そう。

私等も中学生時代には勝つことばかりに執念を燃やした。

しかし、歳老いてみると、人生には勝つこともあれば負けることもあることを経験した。銀貨をはり上げて地上におとすと、表がでると裏がでる度合いは、そう違はないそうである。いやスポーツでも時には弱い方が勝つので面白いとも云えるが、同じ様な力の時は、勝つこともあれば、負けることもあるものだ。

北野高校のラグビーの諸君にとっては、優勝をするよりも、あれだけ進学の勉強をしつつも、これだけ立派な成績をあげたことは、真に人生に於ける快レコードで、諸君の歴史として一生誇り得るものであると、私は讃えてやまない。

実にプレーヤーも良くやったが、それを導いた自見コーチの偉大さにも私は頭を下げざるを得ない。立派なコーチである。

自見先輩は、たゞ単にラグビーばかりではなく、この世の歩み方の真髄を教えてくれたものと私は思っている。

選手諸君が卒業をして、社会に出た時には、六稜スピ

リットを持って、あく迄も低姿勢で、踏みこたえ、押しに押し、突進すべき時には快走をしてトライを重ねて貰いたい。ラグビー諸君は、実に幸運な人生の一時を持ったものだとは信じている。

この一文をものしている80才の先輩は実に面白い人生の経験をもった一人である。

大正12年であったか、同級の伊藤次郎君(慶応大学ラグビーフットボールの名フルバックとしてならし、高校選手のためのラグビーの教科書も書いている)が、運動部の10数人を集めて、ラグビーの説明を行って、一つやってみようということになった。その頃、私は野球の選手をしていたので、ラグビーには専心できなかったが、それでも不足の場合の補充選手で、スクラムを組んだ時には、ボールの代りに頭を蹴ったりしたものであった。

驚いたことがあった。対大阪外語戦であったか、死んだ星野君のゴリは、スクラムから出たボールを持って駆け出した、あれよあれよといっている中に味方のゴールにトライ。これも頭を蹴られておかしくなったからである。但しその後、別に賢くもならず卒業をしたように記憶している。

その頃のラグビーで、未だに生きている面々がいる。前述の伊藤次郎君、水谷弘君、住井保太郎君、佐多長春君、井上健一君等であるが、今回の実戦に立会ったのは私一人であらう。

大正14年であった。今の甲子園球場ができて間もなく、第1回の全国中学校ラグビー大会が催されて北野中学も出場した。大阪地方の中学でラグビーをやっていたのは天王寺中学と北野中学だけであったからである。

その時の応援団長がこの私である。所が応援団員たちが承知をしない、おい団長のツル吉、皆スパイクをはいてやっているが、あれは違法である、文句を言ってこいという。まだその頃には一般の者は、ラグビーはスパイク・シューズをはいてプレーするのだということを知らなかった時代であった。

その結果は、時の花形、慶応普通部に30点以上もあけられて、散々な目に会ったように記憶をする。

しかし、昭和17年であったか、甲子園の南競技場で行われた全国大会では、北野中学が優勝をした。

この時に観戦をしていた大先輩では、私等の時代のアンカーであったダアーの故宮内林蔵君(出征をして満州で戦死)と私の二人、兩人ともスタンドで飛び上って喜んだ。

その頃には私達もいささか結構な身分であったので、宮内君が10円を提出し、私が10円をはり込んで、20円で、全選手と共にスキヤキで優勝祝いをやった。

20円で20数名のスキヤキが出来たのだから今昔の感にたえぬ昔物語りの一駒であった。

所で、この一文の筆者は、第2回太平洋会議の結果、特別留学生となって、日本人として初めてのニュー・ジーランド大学農学部(Canterbury Agricultural College of New Zealand University) たゞ今のリンカーン・カ

レッヂ (Lincoln College) に入学、卒業をする身となった。日本人として草地農学を専攻したのは私が最初の人間だそうである。帰国をして後に、我が国に草地農学を樹立し得た一人となってしまった。その頃のニュー・ジーランドには私の他は日本人は誰一人もいなかった時代で、私が帰った時には、毎日新聞は私の持って帰ったニュー・ジーランドの知識や写真で、一面をさいて報道してくれたほどであった。

その様なわけで昭和11年(1936)の第1回のニュー・ジーランド大学日本遠征の際には、私がサブ・マネージャーとなって、日本の各地に転戦をした時に御世話を申し上げた次第であった。

2月11日に東京には大雪が降って60~70センチも積った。その日には対日本学生選抜戦であったか。その頃の日本ラグビー協会会長で、慈恵院大学長の高木男爵と私は雷のフィールドに立って、その日のゲームの延期をきめたことも、私にとっては昨日のような思いがする。

困難なことに遭遇したのは、一行の到着2日前に英皇帝のキング・ジョージ5世が亡くなったことで、競技の延期説も出たが、それは困難ということになって、到着後直ぐに甲子園ホテルに皇帝の写真を飾った祭壇を設け、礼拝をして貰って予定のプログラムを運んだ。

終戦後しばらくしてから、私は2年に一度はニュー・ジーランドを訪れている。その度ごとに、この時の選手の誰かと会っているが、やはり半数の人は天国に召されてしまっている。

私がオークランドを訪れる時には、名フルバックのロン・ブッシュ君とも会うが、近年は腰をいためて、病院通いにあけくれている。

つい2年前であったか、ウエリントン出身の主将であったチーフ・パーソン君が50年振りでやってきてくれた。阪田好弘さんと私とで奈良を案内し、阪田さんの姉さんのお宅でスキヤキを御馳走になり、再会を喜びあった。

その一行の一人のR・C・ワイルド君は、ニュー・ジーランド最高裁判所所長になって、サーの位を与えられていた。ある日、私の後輩であるニュー・ジーランド農林省普及部長のハッドフィールド君と私は昼食をいたゞいて後に、さあ1時半過ぎであったか、ウエリントンの最高裁判所を訪れて、門番に私の名刺を渡し、所長に面会を申し入れた。

門番は、おかしな日本人がやってきたものだ、相手にしてくれないが、いや重要な人がやってきているのだから、兎に角持って行ってくれと頼んだ。門番はシブシブ私の名刺を持って行った。

暫くしてその門番が帰ってきたが、その態度たるや、まるで日本天皇陛下の御来臨のようなもので、低頭平身、所長にお取次を申し上げたところ、2時より開廷の予定を15分間延期してお会いするからお通し申し上げるとの由であると言って門番は驚いている様子であった。

所長は私を抱きつかんばかりに喜び、次回には食事をしようと約束してくれたが、実現せずにガンで亡くなってしまった。

その時に驚いたのは門番ばかりではない。同行の農林省普及部長、ニュー・ジーランド人であるが、最高裁判所所長に会ったのは始めてで、こんなエライさんに会えたのは、川瀬先輩のお陰であると喜んでくれた一幕もあった。

さてさて人生には思はぬ事柄が起るものである。それは大変に喜ばしいことであるが、又、反面は淋しいことでもあり、全く予期しない出来事であった。

それは、ニュー・ジーランドの我が母校、リンカン・カレッジ(英帝国内では3番目に創立された農科大学、1878年開校)のラグビー・チームが今年の2~3月に日本へ遠征をしてやってくるようになった。

川瀬勇にとっては、去年から今年にかけて2つの母校のラグビーを通じての大当り年になった。リンカンには、日本の農林省や大学から、研究に赴いた者は20~30人にのぼると思われるが、正式に卒業をし学位を得たのは筆者唯一人である。

北野のラグビーの大先輩であり、日本ラグビー協会の役員である松丸哲也氏(豊国建設株式会社社長)と同志社の岡教授と私は、リンカンの受入れに就いて、いろいろ相談させていただいた。

その折に、北野高校の宮内君(9)と前記の栗山君が、日本高校選抜軍に選ばれて、この3月に渡英をする旨を聞いた。

まことにお目出度いことである。

そこで私ははたと感ずることがあって、松丸さんに、北野のラガーをニュー・ジーランドへつれて行こうではないか、という案を持ち出してみている。日本ラグビー協会も助けていたゞけると確信する。

その案は—1990年にニュー・ジーランドは開国150年祭の祝があり私も参列をすることにきめている。そこで北野高校のラグビー・チームは1990年の7~8月に2週間、ニュー・ジーランドの高校の名門校6校と対戦する(既に我が意には4校を選んでる)。期間は2週間、向うでは全て民宿をお願いをする(費用不要)。

これ等は私がひきうけて御世話を致します。但し、往復の旅費1人30万円であるから、30人で概算約1千万円を捻出せねばならない。ここに問題点がある。

この案は、北野の選手諸君が乗気になり、学校側も承諾し、先輩諸氏が賛同をして、寄附をしていただかないと成立致しません。ただ、日本の選抜チームをということになると、北野の出番が無くなるので、早く名乗りあげねばなりません。

私はまた向うに渡航を致します。その際、対日問題を処理する日本委員会の二人の方にもお目にかゝって、本案を持出しても良いとも思ったりしています。

如何でしょうか、皆様。

北野のラグビーが大活躍してくれたことを喜び祝いつつ、ここにこの提案をすることで、我が夢をふくらませています。(完)

六稜六四会の想い出

— 学制改革後の北野中学 北野高校 —

山本修滋 (64期)

(日本興業銀行常務取締役 大阪支店長)

昭和27年に北野高校を卒業してから、大学、銀行生活で不思議と大阪に縁がない。もう住むことはないかと思っていた矢先、銀行の温情ある計いで35年振りに大阪勤務となり、たちまち山本次郎先輩につかまり、本誌への寄稿を依頼された。引受けたものの、意外とむづかしい。いろいろと御世話になった先生、友人にふれたいと思い乍らも、大変に偏った内容になってしまったことを最初にお断りしておきたい。

昭和一ケタ最後の世代

先ず、わが世代のPRからはじめたい。わが世代は昭和8年生れから9年の早生れまでで構成される。これを私が昭和1ケタ最後の世代というのは、われわれまでが「サイタ サイタ サクラガサイタ」ではじまる尋常小学校の入学であり、また旧制北野中学校入学の最後であるからです。小学校2年の時に国民学校に改組され、その12月に大東亜戦争がはじまり、集団疎開にいったりして、6年生で終戦を迎えた。国民学校の教科書は当然のことながら、軍国主義一色となり、国語の教科書なども「プリンス オブ ウェールズの最後」とか「バタビヤの日本人」など大東亜戦争の話が入ってくる。なかでも、尋常小学校とのちがいを端的に示しているのが、修身の授業です。国民学校の修身はいわば教育勅語の前段「吾が皇祖皇宗ヲ肇ムルコト宏遠ニ……コレ吾が國體ノ精華ニシテ……」の部分に力入れられた国粋主義教育です。つまり、国体明徴の教育というのか、天皇にまつわる話を多くとり入れている。天皇崇拜思想をうえつけ、天皇陛下のためには莞爾として死ぬという思想です。これに比し、尋常小学修身教科書は教育勅語の中段のくだり「兄弟ニ友ニ 夫婦相和シ 朋友相信ジ」といった一般的な倫理教育にむしろ重点がある。

国粋主義教育は終戦を機に180度転換し、教科書のかなりの部分はすみで消して使うようになる。しかし、このような若い世代で価値観が全く違う教育をうけたことは、評論家加藤周一にいわせると最も理想的という。そういわれてみると、わが世代は比較的頭の柔軟な弾力的思考の出来る人間が多いように思われる。しかしそれはいまの年令になると欠点にもなる。人間50才をこえらなるともっと信念を持つべきであり、その意味では頑固さも必要と思われるからです。もっともいまは年相応に頭がかたくなってきている自覚症状もあり、以上の所説は多分に自己弁護を含んでいる。

自由放任の高校革新期

昭和21年、終戦の翌年旧制北野中学校に入ったが、翌年には学制改革で新制北野高等学校併設中学校となる。

さらに中学3年の時に男女共学が実施された。結局高校1年まで最下級生で過したいわば甘えん坊の世代であり、また、いまのように高校受験の勉強も勿論必要なく、のんびり通した6年間です。

学校の授業では、例えば社会科の増田先生は当時の尾高朝雄東大教授著の教科書「民主主義」を徹底的に批判されるという講義ぶり、教科書も権威がない。もっとも尾高教授自体、あの教科書は占領行政の制約から意をつくしていないと断られているが、この授業は大変な名講義で、同僚の多くがその人格形成に影響をうけた先生の一人です。また、大手前からきた女性の先生をからかったり、しめ出したり。或る先生は旧制高校の自由闊達な風を念頭において、君たちも高校生だからとけしけられられたり、自由と放縦をはきちがえているといわれた当時の社会風潮そのものの雰囲気でもあった。

そのようななかで、また、カリキュラムが時々変り、同じ授業がくり返されることもあって、段々と採業をサボることに抵抗感が乏しくなった。私は図書部にいたが、図書部室などもサボリ生徒のたまり場の一つです。高校二年の正月に友人と落合ったところ、これから東京に遊びにいこうやということになり、その日の夜行で上京、当時戸山高校に転校していた小田君（故人、元山陽国策パルプ）の家に四人でころがりこみ、一週間ほどぶらぶらしていたこともある。帰る前日小田君が風邪のため欠席との届書をかいていたが、われわれは北野に帰って先生に「東京で遊んでましたんや。」と報告すると「君ら親元はなれてストリップでもみてたんちがうか。」と仰言るので、「そやそや、先生は何でもしつたはるわ。」のやりとりでおしまいだっただ。

男女共学の強制実施

わが年度を語る上では、昭和23年の男女共学はまさにふれざるをえない大事件であった。旧制の時代は中学から男女学校を同じうせずであったが、アメリカの駐留軍の方針はすべて共学であり、なかでも大阪のアンダーソン氏は強硬で、そのため関西だけは女学校と生徒を強制的に入れかえる共学が実施された。

大阪の場合は北野と大手前、天王寺と夕陽丘、高津と清水谷などと組合せ、わが年度と一年上の年度は生徒の約半数の入替が行われた。北野と大手前の場合は住所により振分けられたが、高津と清水谷の場合はジャンケンで振分けられた。諸般の準備がくれ、この年学校がはじまったのは5月の終り頃で、それまで3ヶ月近く休暇を享受した。

その後クラスの三分の一位の女生徒を突然迎え、戸惑いも多かったが、男子校にのりこんできた女生徒のカルチャーショックも相当なものようであった。女の先生のかなには、北野は廊下も校章も角ばっていて、居づらい思いがするなど仰言った方もおられたが、われわれは考えたこともないことであつた。逆に大手前にいった同僚は運動場がせまいなどいろいろと不都合が多く、気の毒であつた。

女生徒を迎えてから、みんな溫和しくなったこともある。國語の中山先生が奥の細道の講義の際、私は中学三年の時松島(?)にいました。といっても昔とちがって誰もはやさなくなつたと仰言つてられたことなどもその一例です。同級生同士のゴールインも何組かはあり、いまでも(?)同窓会が華やいでいる恩恵に浴しており、夫々よき思い出になっている。

アメシヤンの仲間

アメシヤンとはわが友人仲間です。このおこりは高校1年の時、ホームルームで秋の文化祭にクラスで何かやろうやということになり、同じやるなら金のもうかることをやろうということになったのが発端です。早速に樋田君(理化学研究所)が某党の機関のようなところからスライドを借りてきた。可成り左巻きの内容だったが、勿論検閲もないし、そんなことはどうでもよい。樋田君は当時から破壊活動に熱心だったのに、妙に律義なところがあり、入場税のかからない2円99銭を主張したが、私の裁断で料金10円を申し受けることにした。結果は先ず先ずで、収益でソフトボールをいくつか買った。そのスライド会を準備運営した主力の仲間で作ったソフトボールのチームがアメシヤンです。

この友人達とは旅行をしたり、先刻の東京行も同じ仲間です。淀川の堤防でスキヤキ会をやったりでした。わが同期にはもう一つ「いもクラブ」というグループがあり、一度ラグビーの試合をしたことがある。高校三年の時で、アメシヤンでは山元君(カヤバ工業)がラグビー部、足立君(毎日新聞社)と神村君(旭硝子)が當てラグビー部だったが、大体は軟弱の徒で完敗した。これも授業中にやったのだが、数学の石田先生のクラスでは出席扱いしてくれたのは驚きでした。

この仲間と6人で東京に受験に上り、つれこみ旅館にぞこ寝で泊った経緯については本誌で片山君(大阪市立大学)が紹介したことがあるので、詳細省略するが、あれは私が先輩にたのんで仕切ったことで、いつもみんなにせめられている話です。当時は旅行をするとか食旅行といっていたが、出来るだけ安く上げ、まともなところに泊らない習慣だったのが、受験の時にも出てしまったようなことだったのです。たゞ浪人した三人が翌年入学してくれたのは、ほんとうにうれしく、安堵もしたことでした。

アメシヤンの仲間とはよく気が合い、社会人になってからも、時々飲んだりで旧交を温めてきた。樋田君はいまだに反体制の初志を忘れず、いまは原子力反対運動に熱心です。私は勿論、原子力推進派で、安全性も心配なく、資源のない日本は原主火従でやるしかないと思っているが、議論は仲よくやっている。アメシヤンの東京での一ぱい飲み会も段々に拡大、組織化され、いまは「64128の会」、これは麻雀ではなく、六月四日と十二月八日の会ということで、わが同期全員の東京に於ける会になっている。最近では女性の参加者も多く、益々発展することを希望する次第です。

ラグビーと応援団合戦

われわれの時代は、二年上の山本次郎投手と一年上の多湖隆司投手を軸に、昭和24年春の選抜野球大会に全国制覇をしている。そんなこともあり、前後数年は選抜野球の常連であったし、野球も盛んであったが、校技はラグビーということで、体育の授業でも教えこまれ、盛んでもあり、伝統を感じていた。この最大のイベントが12月の天高戦です。当時は天高の方が概して優勢だったが、わが年度の時には勝っている。

この天高戦はラグビーの試合もさることながら、応援団がにぎやかだった。ところが一寸先輩には失礼な話ですが、ラグビーの応援団に参加すると大学を浪人するというジンクスがあり、このジンクスを破ろうと張り切ったのが島崎君(日本電気)です。前述のアメシヤンの仲間と島崎君と「燦たる六稜星の下、北中ラガーの必勝を期して、KIT...ANO...」をやったのも懐しい思い出です。出来ばえは決してうまいものではなかったが。

余談ですが、先日40数年ぶりに花園に出たので応援にかけつけたが、応援団がワンパターンで、昔のようなバラエティがなくなっていたのは寂しい思いでした。

北野の一層の発展を

以上遊んでばかりの思い出話になったが、それなりに勉強もしたし、友達と議論をしたり、先生の家におじゃましたり、私共にとって北野はほんとうにすばらしい学校であった。いまのようにしめつけがきびしくなく、受験戦争もはしり程度で、のびのびとしたなかで人格形成も行われた時期です。大阪という独特の雰囲気「もうかりまっか。」の社会と一言でいわれているが、これも仲々に味のあるよさをもっている。同僚もみんな北野の卒業生であることを誇りに感じている次第です。

北野では余りにものんびり過ぎたもので、のちに娘をもった時、神奈川県ですが、県立高校への入学がそんなに嬉しいとはつゆ知らず驚いたことがある。それに中学の偏差値の仕組がよく出来ていて、人間を能力の順に並べる精緻さにはまたびっくりした。能力の順にいい高校に入れ、いい大学に入れる。受験技術のみがきをかけることも勿論必要だが、或る意味では全く公平な選抜であり、ブロックも何もない。

こういう智育に偏った受験の仕組とそのため塾、予備校などの隆盛、教育ママの活躍などの風潮には疑問も多い。銀行で学生を採用する立場でみると、受験戦争をやっとこさ勝ち抜いてきたような人間には余り魅力を感じないのが多いことも事実です。教育制度論議にももっとユーザーたる実社会人の意見を入れてもらいたいと思う次第です。

一寸生意気なことをかきましたが、それにしても北野はいまでも大阪のNO.1高校の地位を保持し、有力大学に多くの学生を送りこんでいる許りではなく、ラグビーでも全国大会で健闘されている。全くすばらしい。母校の一層の発展を祈り、駄文の筆を折ることとしたい。つたない原稿をお目にかけ恐縮でした。

六稜同窓会だより

前 六稜同窓会会長

河崎邦夫氏 逝去

前六稜同窓会会長の河崎邦夫氏(38期 元東洋紡績社長、元関西経済連合会副会長)が本年3月7日、心不全のため、大阪府立成人病センターで亡くなりました。享年80才。心から御冥福をお祈り申し上げます。

27回(大正3年卒)理事一海軍寄氏が八月にお亡くなりになりました。

心から御冥福をお祈り申し上げます。

故 桐原眞二氏(32期) 野球殿堂入り

梅 田 明(62期)

野球の殿堂入りを選ぶ特別表彰委員会は59年1月、都内のホテルで選考会議を開き、故桐原眞二氏を選出した。

桐原氏の殿堂入りは特別表彰(野球の発展に貢献した有識者)では53人目、競技者表彰と合わせ76人目。

同氏は明治34年大阪生まれ、慶大の名遊撃手、主将として明治39年以来中止となっていた早慶戦復活(大正14年秋)の道を開き、野球界発展に寄与した。

同氏は大毎野球団のメンバーとして活躍、昭和14年から17年まで、毎日新聞大阪本社経済部長を務めた。昭和20年フィリピンで戦死。

六稜四五会(昭和7年卒) 便り

我々は昭和2年芝田町の旧校舎に入学し、十三校舎の最初の卒業生、平均年齢も73才となった。まだ現役で仕者を凌ぐ人も、悠々自適の人もあるが、最近物故者が5名もあり、また病床にある人が増えるのは寂しい限りである。しかし同窓のうち本年も、森繁久弥君、山本巖君が勲二等を、金子廉君が勲三等を叙勲されたのは誠に慶賀の至りである。

本年も恒例の懇親会を風薫る5月26日夕刻、南海電鉄羽衣駅近くの天光閣で行った。恩師水鳥先生の乾杯の音頭で開宴、語るほどに飲むほどに、白頭の面々にも往年の美少年?の面影が出て、長時間にわたり歡を尽くし、最後に旧校歌を高唱して散会した。出席者は下記の22名。

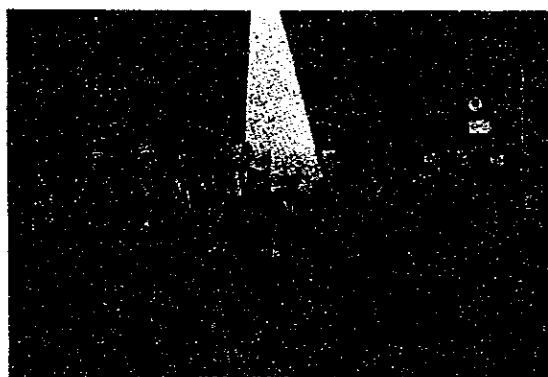
水鳥先生、芦村、有山、今井、岩本、小野、川崎、佐藤、田中(源)、田中(幹)、富田、中川、中野、中村(治)、仲本、古江、布施、本多、松井(一)、松井(正)、守口、山崎。幹事:布施、中村(治)。次期幹事:佐藤、富田。

六稜昭2会(40期)の秋と春!!

▲昭和62年11月4~5日、下呂温泉から中山七里一犬山の二日間。

▲途中、旧友故本城徹三君夫妻の慰霊塔の前で、先年飛弾川の豪雨ハンランで白川橋付近から観光バス諸とも流され未だ不明、犠牲となったご夫婦の冥福を祈った。(写真左から)

四方田、岡本、松永、黒田、安達、岡田、川崎、大崎、目黒、鬼一、松田。



▲昭和63年5月20~21日、神戸港から新緑の小豆島で一泊、翌日は高松栗林公園を経て、いま世界的話題の瀬戸大橋を渡り新幹線で帰阪。

(写真)は小豆島土庄で二十四の瞳の岬の分教場前で左から、村田、川崎、小西、岡田、平尾、小泉、四方田、高安、西宗、神田、黒田、大崎、鬼一、辻、松永



六稜昭三会 (昭和3年卒・41期生)

年々会員の数が減って訃報が伝へられて来るときはいつも身に染みる思いがします。

昨年11月13日秋季総会の第一部は会員北橋忠男君の世話で松下電器産業(門真市)ビデオ工場並びにニューメディアセンターを見学、参加者は旧師土屋憲三先生を始め、会員夫人など21名でした。第二部は堂ビル清交社で懇親会、参加者は先生、ゲスト、夫人5名、会員21名計28名でした。ゲストには大正12年同期入学、3ヶ年間に在籍、1979年迄西ボルネオに駐在した井関恒夫君を迎へ、当時の苦心談を拝聴しました。

次に本年は卒業後60周年記念、東西合同昭三会総会を企画、去る5月10日芦の湖(箱根)にあるダイヤモンドリゾートホテル(会員岡田喜雄君顧問)に一泊、翌日芦の湖から十国峠を周遊、みんな元気で三島駅より帰路につきました。両日とも好天に恵まれ、十国峠よりの「富士」の雄姿に英気を養いました。

「東京昭三会」は63年3月24日三菱クラブで開催、広瀬、佐野、前田、渡辺一郎、青山、小野田の6名が会合。▲会員児玉市太郎君(62. 11. 1) 赤松祐玄君(62. 12. 12) 山本泰三君(63. 1. 25) 藤本保君(63. 7. 17) 多湖尚一君(63. 7. 26) が逝去されました。(合掌) 芦の湖周遊参加者

大阪側 畔地、井上、大川、岡田、川畑、栗山、坂口、田中(喜)、土出、野木、同夫人、森川未亡人、末吉

東京側 青山、浅岡、小野田、同夫人、佐野、渡辺一郎 (昭和63. 5. 31. 末吉記)

(写真) 松下電器ビデオ工場・ニューメディアセンターで、後列左より、北橋、日納、川田、土出、畔地、田中幸、田中夫人、村井、村井夫人、浦田、新井夫人 前列左より、栗山、森本、大川、新井、土屋先生、末吉、坂口、成田、藤本(元)、川畑



- 67期 白高 穂 (06-854-0524)
- 68期 石橋 照子 (0726-88-0495)
- 69期 山本 淑子 (06-854-4070)
- 70期 橋本 富喜子 (06-372-9337)
- 71期 有田悠子 (06-854-5720)
- 72期 前川 正子 (06-491-7839)
- 73期 市川 洋子 (0797-23-4001)

事務局 関西ルネッサンス研究所 (06-203-7521)

六稜のつどい

南尚三君(72期) 江守バルブ社長就任祝賀会

8月10日(水)午後6時半より、ホテルサンルート梅田に六稜人80名が集った。62期から79期まで17期にわたる同窓生が、同君の社長就任を祝うとともに、六稜のきずなを確かめ合う意義のある会であった。

南君は北野時代ラグビー部のフォワードとして活躍するかわら、六稜応援団にも所属し、母校運動部に対する貢献度抜群の好漢であり、今回のラグビー全国大会出場の快挙にも、蔭の援助を惜しまなかった。その彼が、若くして関西の名門、江守バルブの社長に就任。この快事を聞きつけた同期はもちろん、日頃のつき合いの広さから、六稜人多数が集ったものである。当日は、母堂静衛さんも出席され、御子息の雄姿に目を細めておられる姿が印象的だった。

六稜四期対抗ゴルフ大会

優勝は68期、2位67期、雷時期す69・70期

六稜67・68・69・70期の四期各12名、合計48名のゴルフコンペが、去る8月20日(土)、西宮高原カントリークラブで開催された。当日はギャラリーの女性応援も68期2名、69期4名と華やかな対抗戦となった。試合方法は各期上位者7名のグロス勝負で、結果はシングル級を5名揃えた68期が616点(平均88)で優勝、当日、会長に推挙された鈴木良太郎君(67期)より大カップがキャプテン高野裕士君に渡された。2位は67期で629点(平均90)、3位は69期652点(平均93)、4位は70期701点(平均100)となり、3位・4位が会食費を負担した。又、ベストグロス賞は、79の好スコアを出した村田佳司君(68期)に輝いた。女性プレイヤーも4名参加、華やかで、和気あいのコンペとなり、四期友好のきずながますます深まった。(当日、中馬弘毅君(67期)より賞品の御寄贈あり。厚く御礼申し上げます。)

村山リウさんと六稜レディースの会

(このあと9月27日、10月25日、11月22日に開催)

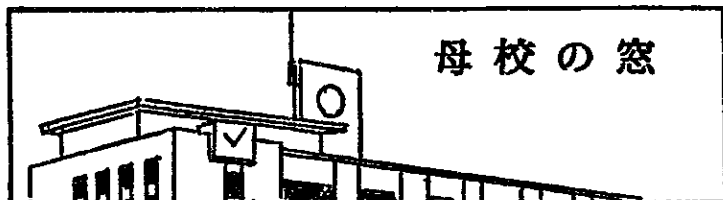
村山リウさんの源氏物語のお話を聞く会が毎月1回、ホテルサンルート梅田で開催されている。2月23日に第1回を開催してよりすでに5回が終了。各回とも、7・80名の六稜レディースが参加、約一時間半、村山源氏を堪能している。67期から73期が中心だが、六稜関係者ならどなたでも参加していただいてよい。ただ、会場の都合上、各期の幹事の方か、事務局へ申込んでいただければ幸い。

各期幹事と事務局は左表の通り。

六校魂

北野高等学校ラグビー部





母校の窓

職員異動

松下 邦夫 S60～S63 校長
山本 敏文 S38～S63 地学
本下 和弘 S62～S63 主事
の先生方のご退職、ご転勤されました。(松下前校長先生・山本先生は3月31日付け、本下さんは4月15日付。)

松下先生は箕面自由学園の理事、高校の校長に、本下さんは池田高校へ移られました。

松下前校長の後任として藤枝 榮先生を寝屋川高等学校(校長)から、4月1日付でお迎えし、また新しく次の先生方を本校にお迎えしました。

小出 猛	英語	千里高校
保寿 節子	数学	豊中高校
宇田 和英	国語	池田高校
阿部 秀実	政経	泉南高校
唐津 正之	物理	新任

御不幸

昨年9月に梅垣淳二先生(S5～S18在職 物理化学)、清田一夫先生(S25～S37、社会)が、本年7月に大井 章先生(S16年10月～S17年9月、国語)がお亡くなりになりました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

〔六校同窓会110周年名簿訂正〕

大井章先生は、100周年、110周年記念名簿には、お名前が脱落しておりました。お詫びして訂正いたします。

第三回文化活動振興賞決定

文化活動の顕著であった部、同好会または個人に贈られる文化活動振興賞は、今年3月に卒業の、渡辺直文(化学研究部)、山根聡子の両君に決定。渡辺君は研究「硫黄の三つの性質」に対し、また山根さんは美術部に所属中の創作活動に対して。

クラブだより

63. 8. 1 現在

【E・S・S】

スピーチコンテスト出場。文化祭英語劇 Wizard of OZ 上演。

【コンピューター同好会】

昨年11月パソコンソフトコンテスト応募。応募作品、解説等文化祭展示。

【オーケストラ】

六校音楽祭、文化祭でハイドンの104番、94番交響曲演奏。今秋、国民文化祭、六校音楽祭等出演予定。

【書道】

文化祭展示。テーマ王羲之。講堂で席書。第1ブロック展、大阪芸文祭、高校展、全国学生書道展出品。

クラブ名簿の連絡先

北野高校内書道部宛

【演劇部】

11月高校演劇コンクール大阪A地区で創作劇「時のあやつり人形」上演。舞台美術賞受賞。文化祭は創作推理劇「ハッピーバースデー」上演。

【映画研究】

昨年、全国高校生ビデオコンクール出品。日本映像フェス応募制作中。

【美術】

昨年夏、高校展出品(アベノベルタ会場)。本年2月、第一ブロック展。クラブ名簿の連絡先

本校内 美術部

【漫画研究】

昨年8月連合漫画祭参加、会誌発行。今年3月初の会誌別冊発行。4月NHKの取材を受ける。

【料理同好会】

今期設立。料理コンクール参加予定。

【フォークソング研究同好会】

フォークソング、ビートルズ等を取りまぜ活動中。校内演奏会予定。

【生物研究】

4月に部誌「LUPE」発行。文化祭では「学校周辺の生物相」を発表。淀川昆虫調査に参加。

【新聞】

六校新聞新入生歓迎号・文化祭特集号を発行。

【地学研究】

文化祭でプラネタリウム上映。昨年夏、岡山で天体観測。

【放送】

本年4月、第9回KBS京都「こちら青春放送局」で奨励賞、脚本賞を受賞。第10回の応募作品制作中。

クラブ名簿の連絡先

〒563 池田市建石町10-11

小西 京子 宛

【コーラス】

昨年夏、NHK全国音楽コンクール出場。秋、六校音楽祭出演。冬、教会のクリスマスにて合唱。本年夏、大手前高校との交歓音楽会実施予定。

クラブ名簿の連絡先

〒555 西淀川区佃2-15-6-407

入江貞成 宛

【文芸】

文化祭で遠藤周作の研究と北野文学48号の発行。「幻」年6回発行。

【園芸同好会】

文化祭で、押し花とドライフラワーと短日処理の朝顔の展示。校内に季節の花を植えて、世話をする。

【囲碁・将棋同好会】

文化祭では、みなさんに将棋をしてもらい、将棋を楽しんでもらう。

【卓球】

公式戦、大阪高校総体(男)中央大会進出3-2箕面、1-3池田北。インターハイ予選(男)リーグ決勝進出、大阪高校新チーム大会(女)0-3羽衣。大阪高校総体(女)0-3宜真。定期戦(秋)7-6市岡(春)9-6市岡、7-8天王寺。六校杯、秋本田啓二、田中恵美子。春、井手毅、重内良子。今夏40周年記念祭を本校

体育館で実施。記念誌発行。

【硬式野球】

公式戦、秋季大会、2-4 教大附池田。春季大会、5-4 松原、4-5 (延長11回)香里丘。定期戦、秋2-12浪商、春3-6浪商、5-10市岡、5-3 天王寺。

【水泳】

大阪高校対抗、女400混継9位(河本・金剛丸・佐竹・松村)。新人戦女200個メ9位佐竹、女400混継6位入賞(河本・金剛丸・佐竹・松村)。中央大会、女400混継8位(河本・金剛丸・佐竹・五味)、男100自9位岸本。

【剣道】

公式戦、全国大会府予選(男)対泉尾工、美原、少路、北千里勝、守口北負。(女)対門真西負。大阪高校総体(男)対福井勝、大阪商業負。(女)対桜塚、箕面東、箕面勝。中央大会(女)対枚方津田勝、東百舌鳥負。定期戦、三校戦男女団体、平田和子優勝、対大手前男女共負、対天王寺男勝、女負。

【柔道】

公式戦、大阪高校総体、対大正勝、対仰星負。阪大招待試合、対鈴蘭台西負、対生野負。北地区新人戦、対高槻南負。学年別1年A対北陽A負、B対豊中B勝、対池田A負、2年A対関大勝、対北陽B負。B対福井A勝、対高槻南A負。京大招待試合準優勝。府予選北地区大会、対茨木東勝、対関大負。天高戦、点取負、勝抜き分け。

クラブ名簿の連絡先

〒561 豊中市庄内東町6-8-4
福田 稔 宛

【器械体操】

二部大会、種目別男子鉄棒2位、女子段違い平行棒3位。大阪高校総体男子団体総合11位。オープン戦床B優勝。新人大会、男子団体総合6位男子個人総合8位。春季大会、男子団体総合4位、男子個人総合6位。

【合気道】

6月の演武に向け北千里高校との合同練習その他を重ねた。今年は特に阿部先生に舞台の上での通し稽古を

見ていただいて部員一同大いにはりきり、その成果を本番に生かそうと努力した。7月末には吹田道場において夏期合宿の予定。

クラブ名簿の連絡先

北野高等学校合気道部

【男子バレー】

公式戦、大阪高校総体、2-0 茨木西、0-2 茨木工、2-0 島本。府立高大会、2-0 吹田、2-0 少路、0-2 豊中。秋季部別、2-1 箕面、0-2 大商、0-2 吹田東。春高バレー、2-0 長野、2-1 科学技術、1-2 泉島取。春季部別、0-2 藤井寺工、1-2 成器、2-1 大阪産大。近大予選、2-1 河南、0-2 泉北。定期戦、2-0 天王寺。

【応援】

全国高校ラグビーや、夏の高校野球の応援を人数が少ないながらも一生懸命がんばっています。

【女子バレー】

公式戦、大阪高校総体、対吹田、能勢、池田共に勝。対淀川女子0-2で負。部別(秋)対池田2-0で勝、対泉州、三島共に0-2で負。一部残留。部別(春)対高槻南、北千里共に0-2で負。対夕陽丘2-0で勝。一部残留。I・H予選、対門真南、枚方津田共に2-0で勝。対西森屋川0-2で負。

定期戦、対天王寺2-0で勝。

クラブ名簿の連絡先

〒560 豊中市東泉丘3の368の2の204
早川 香 宛

【男子バスケットボール】

公式戦、大阪高校総体、153-8 城山、55-98 大阪。大阪高校選手権、58-61 阿武野。大阪新人大会65-72 少路。定期戦、四高定期、88-49 灘、54-95 神戸。天高戦、65-62 勝。

【女子バスケットボール】

公式戦、大阪高校総体、北野59-89 吹田、新人大会北野32-28 高槻北、45-69 池田、大阪高校選手権、49-50 三島。

定期戦、北野33-56 天王寺。

クラブ名簿の連絡先

〒560 豊中市岡町北1-4-26
福岡ひとみ宛(キャプテン)

【陸上競技】

大阪高校総体、4×400m R 川戸、中道、奥井、新里3分32秒0。大阪陸上競技カーニバル、5000m 池本和久、15分47秒2。大阪インターハイ、3000m 麻生順子、11分13秒9。大阪選手権、800m 山田真一、1分58秒45(電) 豊能駅伝男子の部優勝、池本、山田、三村、幸田、野本、尾田。

【ラグビー】

公式戦、全国大会予選、39-0 東豊中、7-3 都島工、27-0 夕陽丘、25-6 牧野、優勝。「全国大会 23-7 北見北斗、22-0 千葉東、12-16 伏見工」。近畿大会予選 10-8 淀川工、24-0 花園、14-4 八尾、11-10 東海大仰星、3-56 大工大、準優勝。府春季大会予選、18-6 大阪桐蔭、21-3 豊中、12-14 茨田。定期戦、48-0 天王寺、49-9 洛北。

クラブ名簿の連絡先

六稜ラグークラブ

〒541 大阪市東区横堀2-32 (梅月内) 青山政雄

【女子テニス】

公式戦、第一学区杯、浜田・松岡組優勝、鶴田・尾高組、準優勝。春季大会、浜田・松岡組、ベスト8。団体の部、ベスト32。

定期戦、4-1 市岡、5-2 天王寺。

【山岳】

大阪秋季登山大会、男子2位女子1位。大阪春季登山大会、男子4位女子2位。夏山北アルプス、薬師岳方面。秋は六甲全山縦走(55.4km)

【ソフトボール】

大阪高校総体、10-0 池田北、15-0 西森屋川、1-3 泉尾。夏季大会5-9 河南、0-3 門真南、8-1 堺市、17-16 北千里、3-6 八尾南、6-5 泉陽、Aリーグ3部3位。部別大会、9-4 盾津、3-1 島上、6-0 枚方西、3-6 日新、2部3位。春季大会、0-1 食産、2-1 大和川、1-0 泉陽、10-2 泉北、Aリーグ3部優勝。インターハイ予選、10-0 近大府、3-0 箕面、0-9 泉州。

プロフィール

北ア 心で見えた 全盲……妻に引かれ踏破

吹田の鍼灸師 倉田章弘さん (66期)



「そびえ立つ峰々の姿も、いまは見えない。でも、頂上に立つと、妻の感激が伝わってきて、かつて見た北アルプスの光景がくっきり、心によみがえるんです」。難病で35歳という働き盛りに失明、全盲になり、大好きだった山登りを断念した大阪府吹田市桃山台1、鍼灸（しんきゅう）

師、倉田章弘さん(53)が、妻の多恵子さん(51)に支えられ、5年前から登山を再開、北ア・槍ヶ岳などの難コースも踏破するまでになった。多恵子さんの背中のリュックのヒモを握っての、章弘さんの「心のアルプス」行。失明—失業という人生の難関を乗り越え、山に挑む夫婦の姿は仲間らの感動を呼び、恩師らが「同じ障害者の励ましになれば……」とこのほど、二人の登山記録「足で見る山」(大阪・創元社刊)を出版した。

章弘さんは33年、大阪市立大工学部土木工学科を卒業して、大阪市交通局に就職。地下鉄関係の仕事に携わり、36年に多恵子さんと結婚。長男と長女をもうけた。ところが、45年1月、かぜ薬を飲んだのがきっかけで、全身に皮下出血が起き、高熱が出て、危篤状態に。診断は百万人に一人といわれる難病「スティブンス・ジョンソン症候群」の中毒症状で、視力も落ちた。4カ月後、皮膚の炎症は治ったが、視力は回復せず、両眼とも失明した。

章弘さんは退院して間もなく、大阪市交通局を退職。47年に大阪府立盲学校理療科に入学し、50年に鍼灸師の

資格を取って自宅で「倉田鍼灸治療院」を開業、第二の人生を歩み始めたが、突然の病魔は章弘さんが一生の仕事として選んだ「技術者」の道を、そして学生時代から大好きだった「山登り」を奪った。章弘さんは使い慣れた登山用具を「もう、使うことはない」と処分、「雪の立山連峰」なども章弘さんの前から姿を消した。

その章弘さんに、山の記憶がよみがえったのは、失明から13年目の58年の初夏だった。白いツエを頼りに大阪・北部の自然遊歩道を多恵子さんと一緒に散策、谷川のせせらぎや小鳥のさえずりが「もう一度、山へ行きたい」という熱い思いにかり立てた。多恵子さんはそれまで一度も登山の経験がなかったが、夫に同行することを決意、その夏、章弘さんは左手で多恵子さんのリュックに結んだひもをつかみ、右手にツエを握って一步一步、六甲山を登った。

その後、金剛山なども登り、60年夏には槍ヶ岳(標高3,180m)へ。61年には白馬岳(2,933m)に登り、62年は鷲羽岳(2,924m)から野口五郎岳(2,924m)へのルートを縦走、北アルプスの2、3,000m級の高山の頂上に、夫婦で計4回立った。危険な場所で、章弘さんが滑り落ちそうになり、冷や汗をかくことも何度か。だが、先を行く多恵子さんの気遣いと、背中のリュックのひもが二人を結び、山行を支えてきた。

二人の登山記録をまとめたのは、章弘さんの府立北野高時代の恩師、筆(しずく)石鉦吉さん(78)＝大阪府池田市室町7。60年4月、章弘さん夫婦らと、中国山地東端の氷ノ山(1,510m)に登ったのをはじめ、二人の山行に何度か同行。章弘さんが多恵子さんの後について、全身で山の様子を感じ取りながら登る姿に心を動かされ、北アルプスのほか、5年前に六甲山に150回登ったという二人の登山記録などを中心に執筆、「足で見る山」(235ページ、1,800円)に収めた。

章弘さん夫婦と零石さん、北野高の同期生らは今年8月、北海道の高峰・大雪山(上川支庁上川郡)に挑む。章弘さんは「頂上に立っても私は何も見えない。でも、妻や山仲間の感激は肌でわかる。私は「心で山を見る」のです。突然の失明で、見失っていた人生も、山に再び挑むことで確かなものになりました。いつか、妻とヨーロッパのアルプスに登ってみたい」。多恵子さんも「夫が失明してからの生活は、言葉で言えないほど、つらいものでした。でも、山登りが私たちに生きる勇気を与えてくれた」と話している。(S63.6.26 毎日新聞朝刊より)

編集後記

○ フィーバーは終わった。暮れなずむ元日の夕空に、グラマंकふうの真紅の一刷毛。冷えてきた中河内の原野を吉田の駅まで黙々と歩く。花園ラグビー場の正門で、皆と飲み干した濁り酒が鉢の芯で燃えている。が、大魚を釣り落した想いも強い。昔、感じたなんかの感じ——恋人に逃げられたあの喪失感にちよっと似てる。しかし、終わった。はるばるメキシコ・シティから、家族づれでやってきた中原孝三君よ。全国各地から駆けつけた六稜の兄妹たちよ。また逢えるのは、いつの日か——。

○ 零石先生の「足で見る山」を読む。倉田君が全盲になる過程とその再起談は、苦しかった。しかし、彼の眼は光を喪ったかもしれないが、ぼくら同窓生の心の中に、間違いなく生きる光を与えてくれた。(J)